Soka University Graduate School of Teacher Education News Letter Vol.6

教職大学院ニュースレター

待望の第6号発刊

コロナ禍の中、希望と勇気（とユーモア）を届けたい!!
編集部員のそんな熱い思いが詰まったニュースレターです。

6
Spring 2021

〈レポート〉教育課題実地研究

創価大学教職大学院の「特色ある授業」の一つである「教育課題実地研究」を受講した院生による体験レポート。

「今年も行われました！実地研究！」

創価大学教職大学院の金字塔ともいえる実地研究が、今年度も実施されました！しかし、世界中で猛威を振るっているコロナウイルス感染症の影響で、実際に現地へ赴いて学べたのは奈良女子大学附属小学校の実地研究だけでした…（泣）。奇跡的なタイミングと、訪問校の過分なるご厚意があり、なんとか訪問することができました。訪問した学生の中には、社会科見学もかねて、京都や奈良の歴史的建造物や景観を思う存分堪能し、教材を集めていました（笑）。「その場所の文化は食べ物から知ることができる」という言葉を耳にしたことがあります(誰から聞いたのか忘れましたが…)。奈良県といえば、奈良漬けや鹿せんべい（注：人の食べ物ではありません）などが有名ですが、伝統的な料理の一つに「飛鳥鍋」（左 写真）があります。1300年前からある鍋料理とされていて、だしと牛乳（ヤギもOK）、鶏肉、野菜がふんだんに使われています。お店によっては味噌ベースのスープに牛乳をいれる所もあるそうです。諸説はありますが、飛鳥時代に唐から伝わってきた食べ物とされていて、当時は乳牛や鶏肉が貴重なものであったため、貴族の食べ物であったそうです。乳牛や鶏肉が唐から伝わってきた、ということも歴史の授業の小話として使えそうですね…(ただのこじつけです)。

「（ヤギもOK）って…。」

「中国の小学生に日本から遠隔授業なんてっ、すご！」

食べ物の話ばかりになってしまいましたが、もちろん、現地の小学校もしっかり参観させていただきました！児童中心に授業が進み、児童同士で意見を繋げて新たな課題や問いに気付くサイクルがとても印象的でした。「児童の言葉を大切にする」「児童中心の授業」とは何なのか、改めて考え直すことができました。各々が実地研究に向けて資料研鑽に励み、課題意識をもって授業に臨んでいました。今回は残念ながら現地訪問ができなかった実地研究も、最先端の技術を使用して、遠隔授業や、現地の先生方のお話を聞くことができました！直接会えなくても、その時の最善を尽くして成された素敵な実地研究になっていました。自身が置かれている現状に屈せず、その時の最善を考えることの大切さを筆者は身に染みて感じることができました。来年度こそはシンガポールを含め、現地に赴いて実地研究ができることを願います!!

【番外編】きのくに子どもの村学園

実地研究とは別に、現地訪問をして学べる授業があります。「総合学習と社会参加学習論」では和歌山県にあるきのくに子どもの村学園に訪問することができました。自然豊かな地にある学校で、小学生から高校生の子どもたちがのびのびと、自分の興味関心事に真剣に向き合っている姿がそこにはありました。高校生と話した際に、彼らの視野の広さに驚きを感じたと同時に、容姿も心なしか大人びて見えました。何が彼らを形成しているのかは一概には言えませんが、ただ一つ言えるとしたら、学び方に優劣はない、ということだと思いました。公立や私立、認可校など学ぶ場所がどこであろうと、自身の意思(志)がはっきりしていることが大切なことなのだと感じました。※感染症対策をしたうえで現地訪問をしました。

↑子どもたちが制作した作品

【魅力・特色ある授業溢れる創価大学教職大学院「進学相談会」のお知らせ】「進学相談会（※令和3年度はオンライン開催）」には、教職大学院の専任教員とともに現役の院生も参加。皆様の様々なご質問にお答えします！進学に関するご質問は下記までお気軽にどうぞ。

〇教職大学院HP：http://kyoshoku.soka.ac.jp　〇電話：042-691-9494（代表）　〇メール：kyoshoku-d@soka.ac.jp

創価大学

令和2年度、「教職修士」と、小中学校「専修免許状」を取得し、教職大学院を修了された皆様です。

修了おめでとうございます!!

※上から順に、氏名、期・コース別、研究テーマ、好きな四文字熟語は？

小原　英美
（11期 プロ3）
「道徳科における子どもの問いを引き出す授業づくり」
臥薪嘗胆

鈴木　結以
（11期 プロ3）
「自尊感情を高める授業づくり―社会科の学び合い活動を通して」
桜梅桃李

中嶌　伸也
（11期 プロ3）
「教師のメンタルヘルス」
初志貫徹

生畑目光一（11期プロ3）
「ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝにおける見方・考え方」を働かせる小学校外国語科の授業づくり―「聴き手」を育成する指導の工夫を通して」
一騎当千

野田　清美
（11期 プロ3）
「共感性における視点取得の育成―外国語の授業における教材開発を通して」
鷹揚自若

北野　明子（12期プロ2）
「東京都「特別支援教室」にみる現状と課題―特別支援教育ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰへの半構造化面接に基づいた分析」
白転百起

布施　健一
（12期 プロ2）
「総合的な学習の時間を推進する手立てを探る―探究課題の設定の現状と課題を踏まえて」
冥祈顕応

山下　球道
（12期 プロ2）
「生活科「町探検」の単元における地域への愛着を育む単元の試作―ｿｰｼｬﾙｷｬﾋﾟﾀﾙの醸成を通して」
日進月歩

山添　晃
（12期 プロ2）
「小学校の学級活動におけるSGEとPAの実践及びその効果」
無疑曰信

大野　滋生
（13期 リーダー）
「働き方改革を通した、持続可能な学校運営について」
希望勝利

白土　明夫
（13期リーダー）
「カリキュラム・マネジメントの実現に向けた方策に関する研究―算数科と体育科の教科横断的な学習を例に」
温故知新

竹縄　光雄
（13期 リーダー）
「特別支援教育校内ｼｽﾃﾑ構築のﾌﾟﾛｾｽとその効果―学校心理的ｱﾌﾟﾛｰﾁと応用行動分析の手法を用いて」
因知勉行

根津　雅子
（13期リーダー）
「小学校の通常学級に在籍する児童への特別な教育的支援―学校における教育相談体制づくり」
報恩謝徳

古川恵美子
（13期リーダー）
「子供の学校適応感が高い学級経営の特徴―学校適応感と学校評価の関連に着目して」
万里一空

みんな本当によく頑張ったわ。**I'm so proud of you!**（誇りに思うわ）。困難な状況であればあるほど、大いなる価値の創造に果敢にチャレンジする、まさに皆さんは「The 創価大学」ですわ。Love♡

【祝辞：皆さんこそ、人間教育者の姿そのもの】

教職研究科長　吉川成司

2020年は、創価教育の父・牧口常三郎先生の『創価教育学体系』が発刊されて90周年の意義深き年でした。しかしその矢先、世界中がコロナ禍に直面する事態となりました。大学構内への立ち入りすら制限され、対面授業がオンライン授業へと変更を余儀なくされました。こうした渦中、イタリアの高等学校長ドメニコ・スキラーチェ氏が、生徒たちへ送ったメッセージが世界的に大きな反響を呼びました。「学びを止めない」「感染者への偏見・差別やデマを戒める」「辛い経験もいつか財産になる」と。

修了を迎える皆さんは、熱意と忍耐を以って努力を重ね、また互いに協力と献身を惜しまず、決して学びを止めることはありませんでした。その姿は、「子どもたちの幸福のために」との確たる使命感に裏付けられた人間教育者の姿そのものであると信じてやみません。

さて、ウィズコロナ、アフターコロナの展望が模索されている状況下、創価大学は創立50周年を迎えます。在学生・新入生の皆さん、この時にめぐり合い、自らの使命として人間教育のエートスを体現した教師をめざす皆さんに心を寄せる時、その姿は頼もしく心躍る思いです。

わが創価大学教職大学院は、15周年、そして20周年をめざしその発展を期しています。私たちとともに、一人ひとりが教職キャリアの新たな地平を切り拓いてまいりましょう！

突撃 INTERVIEW

今回のお相手：
竹縄光雄さん（通称：たけちゃん）

【たけちゃん♡プチ情報】血液型はA型、ユーフォニウムなら任せて、趣味は史跡巡り（つい教材にしちゃう）

↑真ん中がたけちゃん

①教職大学院で学ぼうと思ったきっかけはなんですか。

１４年間小学校の現場で担任を務める中で、年々配慮を要する児童が増えているのを実感する日々でした。自身でもでき得る限り、仕事の合間を縫って少しずつ特別支援教育に関する勉強をしてきたのですが、やはり時間的な限界もあり、一度しっかりとした勉強の時間をとりたいと思っていました。最近は、若手の先生だけではなく、ベテランの先生でさえも学級経営に悩まれているのを目の当たりにし、何とかしたいという思いが日に日に強くなり、教職大学院で学びたいと思うようになりました。

②コロナ禍のなかでどのような学びをされましたか。

新型コロナウイルスによる学習の制限は、創価大学教職大学院への進学が決まり、母校に戻って最高の環境で学ぶことができると思っていた矢先でしたので、正直本当に学びを進めることができるのかという不安はありました。しかし、できることからやろうと大学院での授業が始まるまでに、今まで手の出せなかった専門書や論文などを読み進めることで、研究に取り組むまでの基礎を培うことができました。また、創価大学教職大学院でいち早くオンライン授業を開始していただき、リーダーコースやプロフェッショナルコースの方とオンラインでありながらも励まし合い、触発し合いながら学びを進めることができたことは本当に大きなことだったと思います。最新の知識や教育技術を獲得することができたこと、また創価大学教職大学院にしかない教育プログラムを受講することにより、自身の教育観が大きく変わったことは最大の成果だと言えると思います。

③今後どのように研究を進めたいと思っていますか。

教職大学院では、通常学級における特別支援教育に焦点をあて、所属校での実践研究を主軸に研究を進めました。通常学級の特別支援教育の体制については、法律や制度上では一定の整備が為されているように感じますが、学習指導要領の改訂や様々な教育改革において現場の先生は多忙を極め、分かってはいるけど手が回らない。でも、目の前の状況を何とかしなければならないという課題を抱えている方が多いのが現状だと思います。その中において、今回の私の研究は多くの現場の先生に興味・関心を持っていただくことができ、協力して下さった保護者の方にも喜んでいただくことができました。

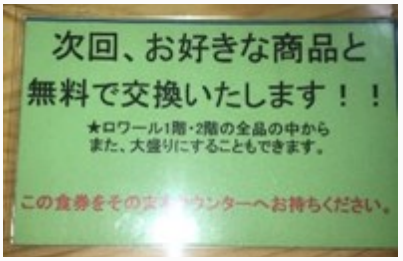
しかしながら、児童・生徒の抱える状況は一人一人違うため、全ての事例に今回出た成果が当てはまるとは限りません。よって、今後は様々な研究会に参加したり、新たな資格取得を目指して勉強を続けたりしていくことで更に知識と技術を磨き、一人一人の児童・生徒にあった支援を考え、実施していけるよう現場において研究を続けていきたいと思います。

④在校生へのメッセージをお願いします。

創価大学教職大学院での学びは、特色ある教育プログラムに裏打ちされた素晴らしいものばかりだと実感しています。今学んでいることが、将来教育の現場で活かされることは間違いありません。そして、何よりも人間教育の最高学府で学んだことは、今後の教員人生の中で誇りとなり、自身の中で揺るぎない原点となります。共に労苦を分かち合った仲間との絆は、どんな困難な状況も乗り越えていく活力になります。したがって、在校生の皆さんは今創価大学教職大学院で学んでいる時間を大切に、希望と自信をもって、これからも研究に勉学に取り組んでいって欲しいと思います。そして、近い将来、教育の現場でお会いできる日を楽しみに、自身も在校生の皆さんに負けないよう頑張っていきたいと思います！

Mysteries of 教職大学院

File No1　（報告者：リーダーコース　根津さん）　時は９月某日。大学院の授業に慣れ始めたころのこと。彼女は、学友とともに、気分転換も兼ねて、いつも行っている食堂ではなく、少し遠い食堂へと足を運んだ。注文を決め、機械を操作すると、“ガタガタ”という聞きなれない音とともに、２枚の食券がでてきた。１枚目は自身が購入したランチの食券である。２枚目に食事無料券のあたり券であった。カウンターで、「めったにないことですよ」と言われ、無料券と引き換えた。大学院に戻り、あったことがうれしくて、無料券を見せながら皆に話した。しかし、コロナ禍の影響もあり、彼女がその食堂に行くことはなかった。卒業する今となっても、無料券は手元にあるそうだ。幸い、有効期限は設定されていないとのこと。彼女は、無料券（写真）をいつ使うことができるのだろうか?!



File No2　（報告者：プロフェッショナルコース３年生　生畑目さん）　５月の大型連休のこと。親ぼくを深める意味も込めて、大学院に近い学生の自宅で歓迎会を開催する運びとなった。大学院に入学して間もないこともあり、いささか緊張気味ではあったが、皆と和気あいあいとお酒を酌み交わし、楽しい時間はあっという間にすぎていった。彼は、いささか飲みすぎて、意識を無くしていた。時間も遅くなっており、タクシーを呼んだ。しかし、彼は一向に起きず、タクシーにも乗せられず、部屋の廊下で“大の字”になって、一夜を過ごした。友人は、どうすることもできずにそのまま帰宅した。翌日の早朝、彼は、目が覚めると見覚えのない廊下で自分が寝ていた。昨日何があったのかを思い出し、少し恥ずかしい思いをしながら、その場を後にしたのであった。大学院初めの“大いなる”“大物”ぶりであった。

File No3　（報告者：プロフェッショナルコース２年生　布施さん）　梅雨も終わり、初夏を迎えたころのこと。彼は、ゼミの仲間の研究授業を参観するために、集合場所へと向かっていた。事前のメールには、「13時半に、正門の前に集合でお願いします」とあった。その時間は別の授業があったため、事情を説明し、休ませてもらうことになっていた。集合場所である“大学の正門”へと到着した。誰もいないことを不思議に思い、携帯電話を取り出すと、そこに電話がかかって来た。「いまどこにいるの？みんな正門に集まっているよ」とのことであった。「僕も正門で待っているのですが」と答えると、「裏門も確認したけど、君はどこにいるの？」と聞かれ、「“大学の正門”にいます」と答えた。すると笑い声とともに、「“〇〇小学校の正門”だよ」と言われた。「間に合わないから来なくていいよ」と言われ、休むはずの授業に参加するべく、一人戻っていった。ドアを開けるなり、一斉に注目を浴び、教授から「どうしたの」と言われ、「“正門”間違えで、研究授業に参加できなくなり、こちらにきました」と答えると、教室中に大爆笑の輪が広がった。

院生紹介

【創価大学】創価大学は建学の精神に基づき、人類が直面する個々の問題に真摯に取り組み、知恵を発揮していく「創造的人間」の育成を目標としています。そのために「知力」と「人間力」を磨き、「自分力」（学生一人ひとりが有している可能性）を発見し、開花させる人間教育に取り組みます。

☞紹介Movie）人間教育の世界的拠点へ

【創価大学教職大学院】創価大学教職大学院は、創立者池田大作先生の示された「人間教育の最高学府たれ」「新しき大文化建設の揺籃たれ」「人類の平和を守るフォートレス（要塞）たれ」との建学の精神に共通する理念である「人間主義」に基づいた学問研究と教育により、新たな人間観・教育観・発達観・方法観を更新しながら、高度の専門性と実践的能力を備えた教員養成を目的としています。

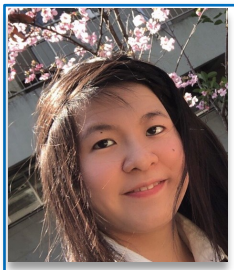
※令和３年３月現在在学の学生の皆さんです。

石渡　美咲
（12期 プロ3）

教授だけでなく現職の先生方やプロ生、修了生など様々な方から日々学ばせていただいています。皆さんと共に学べる日を楽しみにしています。

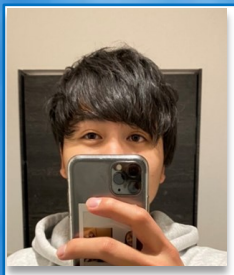
岩間　愛智
（12期 プロ3）

校種、教科、経験が全く違う人たちと出会えます‼共に学び、共に成長しましょう‼



田川　莉
（13期 プロ2）

困ったことがあってもすぐに親身に相談できる教授や先輩がたくさんいます！大学生活を楽しんでください。



田中　広行
（13期 プロ2）

僕は何もできませんが、頼りになる先輩がたくさんいます！お酒とご飯はお任せください。楽しい大学院生活送っていきましょう！

堤　陽子
（13期 プロ2）

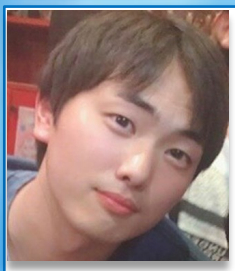
教職大学院は先生のサポートも厚く、院生同士も仲良しです！一緒に楽しく学んだり、ご飯食べたり、遊んだりしましょ〜(^^)教職大学院でまってまーす！

西方　光一
（13期 プロ2）

スーツなら任せてください。教育？他の人に聞いてください

星原 律（13期 プロ2）

教職大学院の授業では、一方的な講義はほとんどなく、院生が積極的に参加する主体的な学びになっています。校種をこえた他の院生との対話を通して、新たな気づきを共有し、自分の考えを深め広げています。さらに、学んだことを実習研究で実践し、理論と結びつけて実践力の向上を目指せる環境があります。本教職大学院で子どもの幸福のために学び続け、理論と実践を往還する教師になりたいと思います。

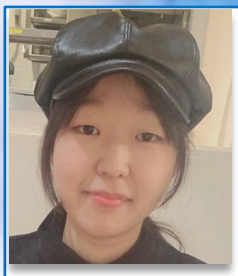


市川　弘隆
（13期 プロ3）

大学院での学びを通して、自身の可能性を一緒に広げましょう！！

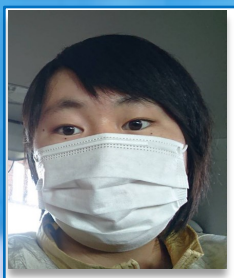
是川　賢一
（13期 プロ3）

教師力を高めることができる最高の環境だと思います！ 教職大学院で切磋琢磨して学べる日を楽しみにしています 。



中谷　弘美
（13期 プロ3）

これから一緒に楽しく学びましょう！



橋本　華奈
（13期 プロ3）

教職大学院に入ると様々なことが学べ、自分の可能性を広げていくことができます。皆さんと一緒に学べる日をお待ちしております！。

原田　秀幸
（13期 プロ3）

教職大学院で一緒に学び合いましょう！皆さんのこと、待ってます！

創大桜 咲かせよう、あなたの

編集後記

本年は、コロナの影響で、思うように研究を進められず、苦労した年でした。しかし、思い返してみると、教授陣を初め、事務局の方々、快く迎えてくださった学校の先生方など、様々な人々のおかげで、充実した大学院生活を送ることができました。感謝申し上げます。これからは、教職大学院で学んだことを生かして、それぞれの理想の教育を実現するために、学び続けることが重要だと考えます。卒業となりましたが、これは新たな出発でもあります。在校生の皆さんも大いに学んで行ってください。最後に、本誌の制作に携わっていただいた全ての方々、編集作業など様々ご迷惑をおかけした三津村先生、誠にありがとうございした。（編集長）

＜編集部員募集＞編集部員の大量卒業につき、またもや編集部員不足（涙）。記事の執筆や編集・校正に興味のある方、一緒に紙面を作りませんか？

教職大学院ニュースレター
〈第６号〉編集部

【編集長】
布施健一

【編集部】
北野明子
野田清美
竹縄光雄
石渡美咲